

第51回 水環境館水辺の生き物講座 ～夜の昆虫観察会～

北九州には自然がいっぱい!
身近な自然でいつもとは違った方法
の生き物観察をしてみるのも面白い
かもしれませんね。
夏休みのいい思い出になったかな?



コガネムシや
羽アリがいっぱい!



ヤママユも飛んで来ました



絶滅危惧種の
ギンツバメも
飛んできました



色々な虫を見る
ことができて
勉強になりました



クワガタムシも飛んで来てくれました

今回の観察中に確認された主な昆虫は、ヒメガムシ、ヤママユやギンツバメなどの蛾、羽アリ、カゲロウのなかま、カメムシのなかま、コガネムシのなかま、ノコギリカミキリ、カブトムシ、ヒラタクワガタ、コクワガタ、ミヤマクワガタなど、沢山の種類がやってきてくれました。

環境省選定『重要湿地』in 北九州 VOL.2

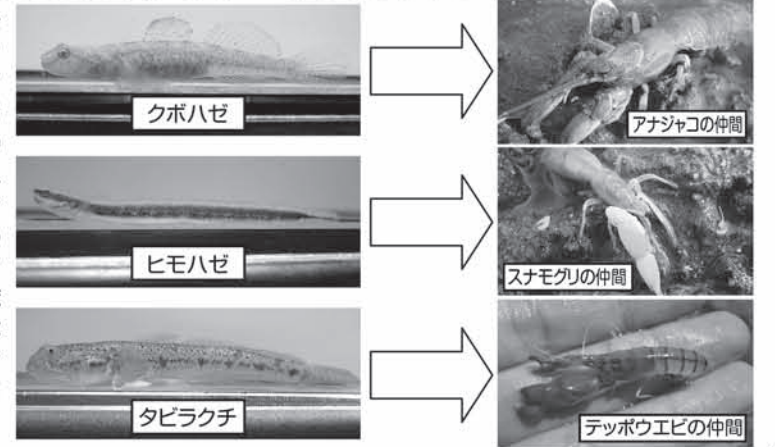
ここがすごい! 『奥畑川河口および大積干潟』



周防灘に流入する奥畑川の河回干潟と海に面した前浜干潟から成り立っています。様々な底質環境が見られそれに応じ多様な底生生物が生息しています。また県内ではわずか2水系でしか確認されておらず福岡県RDB2014で絶滅の恐れが最も高いランク(絶滅危惧IA類)に指定されたクボハゼのほか、トビハゼやタビラクチ(絶滅危惧II類)、シロウオ、マサゴハゼ、ヒモハゼ(準絶滅危惧)などの希少なハゼ類が多く生息することでも注目されています。

希少なハゼ類を育む奥畑川の干潟環境!

クボハゼやヒモハゼは繁殖期にはアナジャコ類やスナモグリ類の巣穴の中で産卵します。またタビラクチはテッポウエビ類の巣穴を自分の隠れ家を利用することが知られています。このようにこれら希少なハゼの仲間にとって干潟の底に暮らす甲殻類たちは欠かせない存在であり両者の共存関係は干潟の生物多様性を代表するものです。またこれらの甲殻類は底質や塩分濃度の違いによっても棲んでいる環境が異なります。そのためハゼの種数が多いということはそのまま干潟の環境が多様であることを意味しています。奥畑川の干潟はその面積こそ決して大きくありませんが、流れ込む河川の規模や勾配、潮の流れなど様々な条件が偶然合わさることで多様な環境が生まれ北九州でも随一のたくさんの生き物が見られるまさに奇跡の干潟と言っても過言ではないのです。



湿地名『北九州市若松区周辺の溜池群および響灘ビオトープ』



北九州市内の重要湿地はここだ!

湿地名『奥畑川河口および大積干潟』

- ・市町村名: 北九州市(門司区)
- ・生物分類群: タビラクチ、トビハゼ、シロウオなどの淡水(汽水)魚類
- ・選定基準: 基準2に該当(希少種の生息)



湿地名『曾根干潟』 67号で紹介してるよ



湿地名『遠賀川水系の河川および水路』 67号で紹介してるよ

湿地名『お糸池』

湿地名『広谷湿地(平尾台カルスト内)』